片貝新聞

発行所
片貝新聞社
〒947-0101
小千谷市片貝町10367-4
TEL 0258-84-3246
FAX 0258-84-2632
編集発行人 吉原芳郎
印刷所 吉原印刷㈱

題字 黒崎敬滾氏

JA片貝町
シンボルマーク
天の恵み地の恵み

小千谷・北魚のわたしの主張大会で
鴻巣の山口さん（片貝中3年）最優秀賞
次は9月23日県大会へ出場

中学生のわたしの主張2000小千谷・北魚沼地区大会（小千谷・北魚沼地域広域青少年対策推進協議会など主催）が、8月10日小出郷文化会館で開催され、片貝中学校3年生の山口亜希子さん（鴻巣）が12名の参加者中最優秀賞に輝き、9月23日新発田市で開催される県大会に小千谷・北魚地区の代表として出場する。

山口さんは「手話のすばらしさ」のタイトルで、テレビドラマで手話がとりあげられているのを見て感化、本やテレビ、インターネットを使い独学で勉強。医師になるのが夢で、耳が聞こえない患者さんに手話で話しかけ安心させてあげたいなどと主張を展開している。

「県大会でも精一杯がんばります」とはりきっている。

手話のすばらしさ

山口　亜希子

私達は、自分の考えや気持ちを伝える手段として、日本語という言葉を話して伝えます。

日本語には、美しい言葉がたくさんあるので話すのは好きだけど、話す以外にも、相手に気持ちを伝える方法はあります。その中でも私が一番感動したり、すばらしいと感じたのは手話でした。

私が手話に興味を持ち始めたのは小学校高学年の時で、あるテレビ番組がきっかけでした。その中では、耳が聞こえなくて言葉を話せない人と健常者が、楽しそうに会話をしていました。

それを見た私は、驚きました。失礼かもしれないけれど、私は今まで耳が聞こえない人と健常者が普通に会話をすることは、相手が何を言おうとしているのか、何を伝えたいのかを、お互い理解することが難しいから大変なことだと思っていました。人と人との間に、厚い壁があるように感じていました。

でも、テレビの中の人たちの間に、壁は全く感じられませんでした。そして、その壁を破っていたのが手話でした。その時、「手話ってすごいな。」と思い、大好きになりました。耳が聞こえない、耳が聞こえないと言うけど、手話で伝えるにあたって、手話を読み取る目は耳で、伝える手は口のようだと思いました。その口から話された一つ一つの動作には、とても感情がこもっていて、とても温かいものだと感じられました。

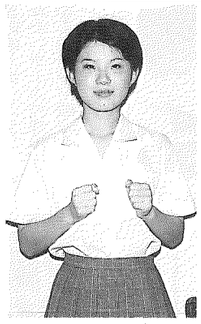
その時から、「私もいつか必ず手話ができるようになって、耳が聞こえない人たちと話がしたい。」と思うようになりました。

そのために、手話の番組を見たり、本で手話を勉強したりしました。その他にも、今ではインターネットで手話を学ぶことができるので、本でわからなかった単語などは、インターネットで調べたりもしました。

手話には、昔のできごとがきっかけとなってできたもの、物の形・動作がそのまま手話になっているものなどがあり、手話の温かさだけでなく、楽しさやおもしろさを知ることができました。

私が学んだ手話の中で、一番感動したものは、「寂しい」という手話でした。これは、胸に手をあて、その手を下におろすに従って、親指と人さし指を合わせていくようにして表します。この手話の由来は、寂しくて心がつぶれそうな様子から表現に心をうたれました。ただ「寂しい」という四文字を言うだけよりも、手話で伝えた方が「本当に寂しいんだよ。」と相手の思いが伝わってくるように感じられました。

私は、こんなにもすばらしい手話に興味を持つ人、できる人が少ないことに、悲しい感じを持っています。だから、もっとたくさんの人に、この手話のすばらしさを知ってもらえたらいいと思います。


▶手話で〝頑張る〟の山口さん

でも、そんな中、耳が聞こえない人のために手話を勉強し、自分の仕事に役立てている人がいるということを知りました。手話を使って道案内をしてくれるおまわりさん、一緒に遊んでくれる保母さんなどがいるそうで、とてもうれしかったし、自分もそんなふうになりたいと思うようになりました。

私の夢は医師です。将来その仕事に就き、耳が聞こえない患者さんが診察に来た時、その患者さんは今の自分の症状をうまく伝えられず、とても困るのではないでしょうか。そして、患者さんは誰でも、病気に対して不安や苦しみを持っています。もし、私が手話のできる医師だったら、患者さんは安心できるし、病気への不安や苦しみを聞いてあげることができます。そんな患者さんの力になってあげられる医師を目指したいです。

私が「必ず手話ができるようになりたい。」と思う心の奥には、そんな思いがあったのかもしれません。

手話には、やれば伝わるものもあれば、「寂しい」という手話のように奥の深いものまでさまざまです。だから、一生懸命できるようになろうと努力したけど、なかなか上達しませんでした。

私がいつできるようになるのか、検討もつかないけど、いつかできるようになって、耳が聞こえない人と笑顔で話す日があるというのは確かなことです。

耳が聞こえない人と健常者との間にある厚い壁、言葉の壁が、いつかなくなる日が訪れることを願っています。

主張

大型施設要望に寄せて

片貝人の血が騒ぐといわれる浅原神社の秋季大祭が目前に迫ってきた。今年は土・日と休日が重なったのと各マスコミの宣伝もあって町内各家はおろか片貝周辺の家までも大勢のお客申し込みがあり、大わらわの状態を呈している。当事者はこの押し寄せる大量の観衆をどうさばくのか注目されるところである。

祭りはともかく、片貝にとって将来の青写真をどう描くのか、こちらは二日間だけの祭りと異なり片貝の将来を左右しかねない生活にかかわる重要な案件がすべりだそうとしている。

これは去る七月市議会で安達稔市議が花火や福祉施設等を含めた大型複合施設の建設を市に迫ったのに対し、それなら地元はどういう意向なのか総意をとりまとめて逆に市長からボールを投げ返されていたもので、どう処理するのか協議会の取り組みが注視されていた。

ここにきて今までの協議会にはみられぬ素早い対応を示し、大型施設を要望する検討委員会を開くことになり委員も委嘱され会合日時も決定されたようだ。いかなる結果が導きだされるのか気になるところである。

近年どこもそうだと言ってしまいばそれまでだがとりわけ片貝をとりまく環境は厳しいように見える。少子高齢化による児童生徒数の激減、高齢者家庭の増加、周辺への大型店舗進出による片貝商業圏の衰退、長引く不況と構造変化による工業者への圧迫、さらにそう遠くない時期に実行されるであろう農協の統廃合等を考えるとお先真っ暗で、花火の年々華やかになるのとは裏腹に不安な要素だけが目立つ。ことに小千谷合併後片貝の拠り所としての役目を果たしてきたJA片貝町の存在はいろんな面で大きな恩恵を町民に与えてきただけに影響は大きい。これとていくら望んでも避けて通れないことでいずれやってくることを覚悟しなければなるまい。

現在は平穏だが星野市政時代突如として起こった片貝支所の廃止も近い将来の問題として再浮上するのは必至で、それ以前に合併した各地区の支所がすでに廃止されていることを思いば、これまた当然の成り行きとみねばなるまい。IT革命が叫ばれOA機器の進歩した今日その設備さえあればそう日常生活に支障をきたすこともないだろう。

時代のすう勢も考えずいたずらに反対することだけが能ではない。転ばぬ先の杖早いうちに対策を考え市当局はどう考えているのか、どんな形が良いのか考えをめぐらすことも必要だろう。

これら諸々の問題を頭のなかにいれ将来の片貝には何を必要とし、どのような施設が最適なのか総合的に判断して決定してもらえたい。

これからは多少の環境変化があったとしても住民が安心して暮らせ、生活しやすい街の形成が図られることを多くの町民は望んでいるように思う。

今後とも協議会がイニシアチブをとり片貝の先頭にたって町民を引っ張ってほしい。

かたかい春秋

今年の夏ほど暑い日が多かったのも珍しいのではなかろうか。立秋は8月7日であるから、この日が過ぎたからと言って、さほど期待はかけていないが、お盆が過ぎ、おぢやまつりが終わっても、依然として猛暑が続いた。▼しかし、流石に朝晩は大分涼しくなり、やはり9月、そして我等が片貝まつりが近づいたんだなぁ、と実感する。一年で一番人口が多くなり、活気あふれ、賑やかな2日間が間近かだ。今年は土、日に重なったので、大勢が訪れるだろう。有名な祭りとなり、片貝町としては誇りの部分も多いが、女性陣は接客で花火見物どころではなく、不満の声も多いようだ。▼片貝町の女性のパワーはすごい。でも方向性を間違うとひんしゅくを買ってしまうことをお忘れなく。2面の盆踊り記事の写真を見ていただきたい。「お盆くらいいいではないか」との声もあろう。小欄もそうは思うが、やはり一定の枠があるのではなかろうか。今の風潮は、〝やまつりだからと言って、それを取りしきる団体があたかも町民総意の団体であると勘違いしている傾向がありやしないか。自分達の立場を錯覚してはいないか、等々考える機会にしたい。かいはいられない。勘違い脱線行為は大人にも随所に見受けられるからだ。例えば、いくら片貝町、片貝人の誇りである片貝まつりだからと言って、りたいことをやって何が悪い〟というような、自由のはき違い、勘違いが横行する。写真はその一例といえる。事実、境内で小社記者に何人もから「あれは何だ」「みたところが悪い」と〝通報〟があった。▼しかし、若い女性ばかりを責めてはいないか、等々考える機会にしたい。

きたの要作品コンサート
高梨町会館で盛大に開催

高梨町の山崎勝氏（60、日本ベアリング常務取締役）は、〝きたの要（かなめ）〟のペンネームで、数々の御当地ソングを作詞、それに自費で友人、知人等に作曲を依頼、歌唱力ある活躍中の知り合いに唄い手を依頼、MDやカセットテープに録音して、プレゼントや実費販売をしている。

高梨・五辺の有志が中心となり、きたの要オリジナルコンサート実行委員会を組織、去る7月29日午後7時から高梨振興会館で〝小千谷の北都・高梨町からの文化発信〟と銘打ってコンサートが開催された。

「佐平治物語」の作曲は安達美登里氏（片貝町一之町）、「高梨ワルツ」の作曲は山城秋世氏（高梨町）で両氏とも出席。小千谷ナツメロの会々長の渡辺大助氏（千谷）、義弟で県内外の民謡・甚句大会で優勝の新保功氏（千谷）が熱唱、大勢が来場して賑わった。（左から二人目が山崎氏）

お盆町内対抗野球大会
一之町が優勝

第45回お盆町内対抗野球大会が片貝町野球連盟（太刀川忠雄会長）の主催で去る8月15日(火)午前8時から片貝中学校グランドと片貝スポーツ広場の二会場で、7チームが参加して開催され一之町チームが優勝した。

当日は32度を上回る炎天下のなか、片貝中学校グランドでは、一之町チームは一回戦で三之町チームを9対5、二回戦では片貝中学校チームに12対0で勝ち決勝へ駒を進めた。

片貝スポーツ広場野球場では町裏チームが一回戦で池津チームを8対3、二回戦では二之町チームに5対4の接戦で勝ち決勝戦へ。決勝戦では一之町チームが昨年度優勝の町裏チームを6対0の大差で敗り優勝旗を獲得した。なお、最優秀選手には決勝戦で猛打の町裏チームを0点におさえた一之町チームの佐藤忍投手（写真前列左端でMVP賞カップを持って）に太刀川野球連盟会長からMVP賞が贈られた。優勝チーム（一之町、写真）のメンバーは次のとおり。

▽吉原富二、小野塚治、五十嵐正史、久賀透、吉原章、佐藤公一、佐藤忍、佐藤圭三、丸山英男、高島大樹、相崎保雄、吉井克幸、相崎悟（敬称略）

ミニ作品展盛り上がる

片貝公民館利用者による『ミニ作品展』が去る8月11・12の両日ふれあい公園けやき園・忍字亭で開催された。

この催しは年間を通して片貝公民館を利用している団体の押し花の会、押し花サークル水中花、ヤヨイ大学水墨部、陶芸クラブと公民館主催のくらしの学級、親と子の陶芸教室等の作品が数百点展示された他に片貝保育園の年長44名、年中43名の園児たちの絵画が展示され、会場を訪れた多くの人々の目を楽しませていた。また12日には参加費五百円で陶芸体験コーナ、押し花体験コーナ、土鈴絵付けコーナがあり、沢山の人達が色々な体験をしていた。

当日忍字亭を訪れた人達には受け付けで、無料で空クジありの抽選会があり、当選者には押し花・陶芸作品など、世界にひとつしかない、各団体の手づくり品がプレゼントされ、入場者を喜ばせていた。

尚、ミニ作品展実行委員会ではミニ作品展示会で大変好評だった写真の土鈴（写真左）を9日(土)・10日(日)の片貝まつり当日、物産店で実費販売をする。

浅原神社で緑陰図書館

大型紙芝居などで楽しむ

市立図書館の緑陰移動図書館が8月2日午前9時45分から浅原神社境内で開催された。

当日会場には片貝保育園のひまわり・ばら組の園児たちを初め多くの子供たちが集まり、市立図書館職員、図書館ボランティア、小千谷よみ聞かせ会、片貝よみ聞かせ会等による「うさぎとかめ」のお話と大型紙芝居二つ「きつねのパンとねこのパン」、「こわしておいしいオムライス」を披露。子供たちは大喜びだった。

木遣講習会テープも寄贈

片貝伝統芸能保存会の木遣部の主催で去る8月20日午後8時からけやき園・忍字亭で、木遣の講習会を開催した。

当日会場には33歳翼進会、42歳船出会、50歳十九伸会、還暦新辰巳会の各クラスの代表者十数名が参加して、木遣部（12名）の指導で正調木遣の練習を行った。また、木遣部では部員（21名）が吹き込んだ、♪本町二丁目♪で始まる奉納木遣のテープを当日出席した各クラスと成人、それにい組を始めとする各支部に贈呈。関係者は「テープをもとにして、木遣の練習をしていただき、その成果を片貝まつり9・10日の両日に浅原神社に奉納していただければ」と語っていた。

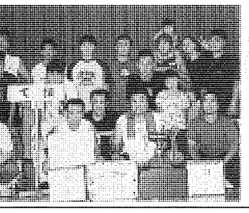
少年対還暦以上少年チームが勝つ

去る8月20日午後1時から片貝スポーツ広場野球場で、今年の春、市内学童野球大会で優勝した片貝ジャガーズ（小学校4、5、6年で構成）と5年前少年だった還暦チーム（下は60才、上は70代14名）の対戦が、片貝野球連盟の主催で行われ、少年野球ジャガーズが10対5のWスコアで勝利を獲得した。ある参加者は「お互いに、学ぶことが多かったのでこれからも続けてほしい」と語っていた。

ナイターリーグプロティン優勝

第8回本田善治杯ナイターリーグ戦が7月4日から21日まで片貝町野球連盟の主催で、片貝スポーツ広場野球場で開催された。

この大会には片貝野球連盟加盟の5チームと片貝中学校の6チームが参加してAブロックとBブロックに別れて予選リーグが行われ各ブロック上位2チームで決勝トーナメント戦が行われた結果、昨年の覇者プロティンチームが決勝戦でとなかいチームを8対0で破り2年連続優勝した。なおこの大会でレッドチームの小野塚吉紀選手がJA片貝町戦でホームラン、又となかいチームの浅田祐介選手も対レッド戦で3ランホームランを打った。



今年からJAソフトバレー

男子は四之町、女子はダ・クイーンズ

第一回JA片貝町ふれあいソフトバレーボール大会がJA片貝町、片貝公民館、片貝町体育協会共催で去る8月6日(日)片貝中学校体育館で開催された。

この催しは昨年までのふれあいドッヂボール大会に変わって、今年から始められた大会で、ソフトバレーボールを通じて交流を図るとともに、健康で明るい地域づくりをすることを目的とした催しで、当日午後12時受け付け、12時40分から開会式が行われ、1時から競技開始となった。参加チームは男子12チーム、女子10チーム、計三百三十名前後の選手が出場して、男女共トーナメント戦で熱戦が繰り広げられた結果、男子は決勝戦で五之町チームを破った四之町チームが優勝。女子はダイナマイトクイーンズチームが決勝戦で池津チームに勝ち優勝杯を獲得した。なお男女共3位は敗者復活戦を行い決めた。結果と優勝チームの登録メンバーは次のとおり（敬称略）

男子の部

①四之町チーム＝監督吉原正幸、主将佐藤雅則、浅田誠、友田理、安達和志、大塚博文、野中基樹、吉原豪、吉原竜、新野典孝、高橋昭雄、安達淳、小林登、宮島幸夫、名塚孝一、②五之町チーム、③寺町チーム

女子の部

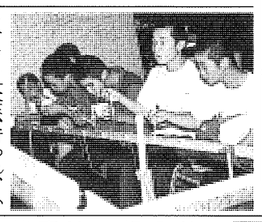
①ダイナマイトクイーンズチーム＝監督藤塚範子、主将吉井幸子、安達由美子、小野塚貴子、佐藤あゆみ、太刀川美由喜、藤塚千恵子、舎川よし子、小宮陽子、佐藤浩子、神林政子、金子千枝子、佐藤公子、松井笹美、②池津チーム、③鴻巣チーム

JAフェスティバル盛況

一等賞は東京ドームボックスシート

JA片貝町（友田明石組合長）は去る7月26(水)・27(木)の両日の夜をメインに午前10時から午後9時30分までJA車両センター前広場でJAフェスティバルを開催した。

当日会場には農機具を初めとする展示商談会や展示即売会、猛暑の中職員が汗を流して作るタイヤキ、タコヤキ、ヤキトリ、ヤキソバ、ハマヤキ、カキ氷などの模擬店。女性部は新鮮な野菜、漬物など手作り商品の販売を行った。また、はずれなしの「ふれあいおたのしみ抽選会」も大人気。職員手作りの涼味満点のそうめん流しや金魚すくいは子供たちの人気を呼んでいた。26・27の両日ストラックアウト大会が行われ、小学生以下の部と中学生以上の部のそれぞれのチャンピオンに8月東京ドームで行われた巨人・中日戦のボックスシート席のペアチケットがプレゼントされた。



特設ステージでは26日午後7時45分から片貝伝統芸能保存会による、木遣、シャギリ、巫女舞の公演。27日午後7時30分からカラオケ大会が行われ大変の盛り上がりであった。

JAゲート・ボ大会

第4ヤヨイ会

JA片貝町主催、片貝町ゲートボール協会・高梨町ゲートボール部共催、小千谷ゲートボール協会主管のJAフェスティバル第3回組合長杯争奪ゲートボール大会が屋敷ふれあい広場特設コートAとJA片貝町生産課コートBの二会場で開催された。

気温32度を上回る炎天下のなか元気な各ヤヨイ会の9チーム58名が参加して熱戦が繰り広げられ、決勝戦はAコート一位の第4ヤヨイチームとBコート一位の第5ヤヨイAチームの対戦となり、第4ヤヨイ会が優勝して、友田組合長から賞状、カップ、メダルが授与された。成績と優勝チームのメンバーは次のとおり。

①第4ヤヨイ会＝相崎仁作、新野正巳、五十嵐ヤウ、高橋和枝、相崎リツ、吉田四郎、山口シヅ（敬称略）、②第5ヤヨイ会A、③町裏ヤヨイ会。

▼読みきかせ＝小学校低学年を主な対象に、絵本や紙芝居の読みきかせのボランティア実施の「読みきかせ会」の9月の活動予定は、1日(金)午後3時30分～、22日(金)午後3時30分～の、二回いずれも片貝ふるさと会館で開催。

防犯スポーツ大会で片貝チームが見事優勝

第22回防犯スポーツ（野球）大会が、去る8月1日(火)と3日(木)の二日間午後7時から片貝スポーツ広場野球場で開催され、片貝防犯連絡協議会が優勝した。

この大会は小千谷市防犯協会の主催で毎年行われている大会で、今年は参加5チームによるトーナメント戦が行われ片貝チームは準決勝戦で千田チームを15対2の大差で敗り決勝へ駒を進め、決勝戦では東小千谷チームを4対1で勝ち優勝旗を獲得した。結果と片貝チームのメンバーは次のとおり（敬称略）。

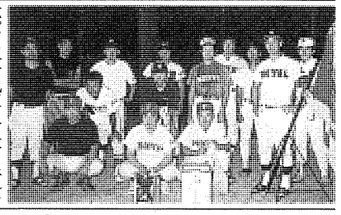
①片貝防犯連絡協議会＝監督佐藤正美（屋敷）、佐藤雅則（四之町）、丸山信一（町裏）、門倉千秋（屋敷）、藤塚大輔（二之町）、高島大樹（一之町）、丸山英男（一之町）、吉原章（一之町）、佐藤公一（一之町）、浅田誠（四之町）、浅田進一（五之町）、黒崎仁（町裏）、五十嵐正史（一之町）、芝直樹（屋敷）、芝昭男（屋敷）、野中基樹（四之町）、相崎敏（稲場）、浅田祐介（五之町）、安達孝人（町裏）、太刀川孝紀（茶畑）、久賀透（一之町）

②東小千谷防犯連絡協議会

③岩沢防犯連絡協議会

③千田防犯連絡協議会

敢闘賞城川防犯連絡協議会



今日と6日に民踊流し練習会

片貝公民館（吉原幸至館長）では8日の片貝まつり民踊流し練習会を今日（1日）と6日(水)の午後7時から片貝スポーツセンターで開催する。参加希望の方は動きやすい服装、運動靴で時間までお越し下さい。多数の参加をお待ちしています…と担当者。なお、詳しい事に付いてのお尋ねは☎84―2026へ。

片貝ヒューマンウオッチング

加藤北銀支店長語る

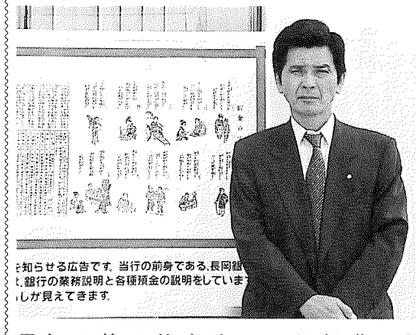
加藤徹也北越銀行片貝支店長(48)に登場いただいた。

新発田市出身、現在は新潟市に居を構える。新発田高校、法政大学を経て昭和50年4月に北銀に入行。平成10年4月新潟市にある卸新町支店の支店長となり、今年4月片貝支店長として赴任。金帰月来の生活を送っている。

片貝町については、「人情味があり、職人気質が感じられ、地域文化に対して前向きのよう。反面、やや保守的な面がなきにしもあらずかも」では」と提言。

片貝支店長として赴任した今年、いきなり大きなイベントにぶつかる。明治34年3月15日に長岡銀行片貝出張所として開設され、今年がちょうど100年目にあたる。そして取引先で組織の片貝北親会も40周年にあたり、来たる10月1日には忍字亭けやき園で、片貝北親会主催でダブルイベントの記念パーティも計画されている。「感謝の気持で100周年　地域に根ざすまごころホクギン」をキャッチフレーズに片貝町の発展に貢献を目指す。「プレッシャーは感じるが、先輩に感謝しながら、精一杯頑張りたい」ときっぱり。

趣味は山歩き、ゴルフ、日帰りで各地の温泉施設めぐり。しかし、金帰月来を繰り返す今、何もない休日は頭と体のリラックスに努めているとか。家族は女手一つ（父は4歳の時事故死）で育ててくれた母、妻、大学生の長男、高校生の次男の5人。



お知らせる広告です。当行の前身である長岡銀
し、銀行の業務説明と各種預金の説明をしています
しが見えてきます。

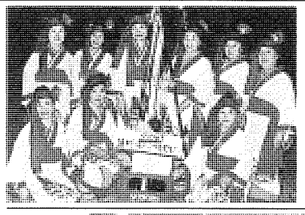
盆踊り大会盛況

でも……？？？

毎年恒例の盆踊り大会が8月15日(火)・16日(水)の両日午後8時から浅原神社境内で賑やかに繰り広げられた。

今年は天候にめぐまれて人出の方は例年並みであったが、踊りを踊る人が少なく淋しさを感じた。

15日行われたチーム対抗盆踊り大会は3チームの参加で片貝大花火音頭会が優勝。同じに行われた町民仮装大会も3チームの参加で茶畑ちどり会（写真）が優勝旗を獲得した。



各盆踊り大会での入賞は次のとおり。

【チーム対抗盆踊り大会】

①片貝大花火音頭会（12名）

②ヤヨイ大学民踊部（25名）

③翠心会（大塾）

【町民仮装大会】

①茶畑ちどり会『2000年沖縄へいらっしゃい』（9名）、②N・C・SC『モウギュウ娘』（10名）

③ブラック・ペッパー『メンソーレ沖縄へ』（3名）

▶アレレ？中味は本物？　それとも水なのかな？

ハローベイビー

○小宮涼花（すずか）ちゃん（一之町三区）

パパ**真一**さん（31才）

ママ**真理代**さん（25才）

第1子長女

平成11年9月27日生

現在の体重8.8kg身長71.5cm

Q名前の由来

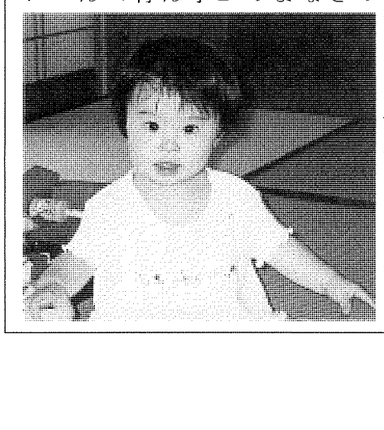
A気持ちのよい、さわやかな朝に産まれ、そのとき「涼」という字が浮かんだので付けました。

Qお子さんの様子

A『いないいないばあ』が大好きで、自ら物陰にかくれては『ばあ！』と夢中になって、毎日遊んでいます。

Qどんな子に育って欲しいですか

A明るい元気な子に育って欲しいと思います。



片中同窓会球技大会開かる

毎年恒例となっている片貝中学校同窓会球技大会が同窓会（浅田正平会長）の主催で開催された。

バスケットボールの参加チームは第44回卒業の飛翔会から第53回卒業の翠嶂会（第51回卒業）までの10チームに中学校A・Bの2チームの計12チーム、バレーボールは一般参加1チームを加えて計13チームで、それぞれの若き汗がほとばしる熱戦が繰り広げられた。結果は次のとおり。

【バスケットボール】

①五十一会（第51回卒業）

②翠嶂会（第53回卒業）

③翠心会（第48回卒業）

③翼翔会（第45回卒業）

【バレーボール】

①片貝中学校Bチーム

②嚆聖会（第50回卒業）

③片貝中学校Aチーム

③一般参加チーム

なお、片貝中学校同窓会では10月に総会と同窓祭を開催するので、多くの参加を…と呼び掛けている。